

40周年記念特別号

青峰同窓会 会報



目次

40th Anniversary

- | | | | |
|-----------------|----|--------------|----|
| 1、創立40周年記念式典 | 2 | 7、理事会発足について | 13 |
| 2、卒業生からの便り | 3 | 8、13年度会計報告 | 13 |
| 3、13年度退官職員 | 5 | 9、14年度会計予算 | 14 |
| 4、各学科の近況報告 | 6 | 10、体育大会等の結果 | 14 |
| 5、高専OB大交流会に参加して | 10 | 11、同窓会からのお願い | 16 |
| 6、SHTN事業報告 | 10 | 12、編集後記 | 16 |

創立40周年記念式典

一般科目 奥 貞二 (45C卒)



平成14年4月27日(土) 多数のお客様(来賓55名、旧教職員53名、卒業生107名、保護者14名)ご臨席の下に、創立40周年記念式典が、盛大かつ厳粛に挙行された。

今回は、卒業生中心に行うということで、先ず、13時から第3合併講義室で、青峰同窓会総会が行われた。笠井副校長、小手川会長の挨拶に引き続き、新しい規約と理事の承認、13年度会計報告と14年度予算の承認が行われ、滞りなく終了した。今まで、同窓会がOB教官中心に、ともしれば先送り式に運営されてきたのが、卒業生各年度に1名ずつ理事になって頂き、皆の意見が反映されて運営される形式が整ったことは喜ばしいことである。

14時から、第1体育館で、記念式典が始まり、学校長式辞、文部科学大臣、国専協会長並びに加藤鈴鹿市長等の祝辞、祝電披露があり、晴れやかに校歌を斉唱して、幕を閉じた。引き続き、14時半から、岡田卓也イオン株式会社名誉会長の記念講演が、「焦土に開く」と題してあった。自分の経験に裏打ちされた、岡田屋、ジャスコ、イオンに至る道のりの中での、経営哲学<上げに儲けるな、下げに儲けよ>、人生観世界観<社会に1%還元する1%クラブ、ウェルマート会長から目に見えないものの価値(情報システム)を学ぶ>は、居合わせた者しか聞けない魅力に溢れたものであった。



その後、15時40分頃、青空広場で、参加者全員を1枚の写真に収める記念写真（表紙写真）が撮られた。引き続き場所を第2体育館に移して、祝賀会が催された。中でも、鏡割りによる乾杯斉唱、そして宴たけなわになつての、鈴鹿太鼓の演奏は、体の芯にまで響く豪快さで一挙に盛り上がりを見せることとなった。同級生同士、恩師を囲んでの語り、懐かしの人との再会、歓談を楽しんだ。17時半過ぎには、お開きとなった。会場を出たところで、40周年記念誌、記念品等を受け取り散会した。

いよいよ更なる50周年に向かって、多難の道に進むことになろうが、今後関係各位の健康とご活躍を祈念し、再会を誓い合おう。

一言付け加えておくと、40周年記念事業として、10月16日の記念体育祭、10月26日～27日の記念高専祭がある。その他、ソーラーカーレース2002や、第13回プログラミングコンテストや、ロボコン2002等の出場の支援協賛応援をも行っていく。

「私の信義」

青峰同窓会副会長 益川 賢市
(42E卒)

周りを見渡せば、不況の風が吹きすさぶ中、企業存続を駆けて、リストラや賃金カットがまかりとおる。エンロン社や日本ハムの不正経営が問題になり、それを正すべき職務にある会計士や弁護士が証拠となるものの焼却をアドバイスするという不祥事が相次いでいる。安定経営を第一とした過去から、投資資本が効率良く利益をもたらしているかを評価する利益至上主義に変わってきているからであろうか。企業経営に日本の文化はないの？モラルはどうしたの？と問い正したくなる。

「益川さん。窓口に興さん方が来て無線鉄塔の建設は困ると言っています。説明に来てください！」町役場の都市計画課の課長さんからの悲痛な電話がある。「すぐ皆様の家の方に行きます」と答えて社を飛び出す。こんな事が何度かあった。平成7年から5年間、携帯電話用鉄塔無線局の建設用地の確保に携わったことがある。それは40m余の鉄塔建設用土地（約300m²）を借地交渉する任務であった。

地主は元より自治会長や地域の有力者へ無線局の必要性和当地域の有利性を説いて理解を求める。土地にはそこにまわりつく色々な人間模様がある。幾度となく開いた住民説明会。そこでは土地に対する価値観の違い、地域全体が持つ住民感情、無線局から発する電磁波の影響、隣地住民の持つ鉄塔の不安感等が次から次と反対意

見となって押し寄せてくる。その意見を真摯に受け止めて協力を求める。その上で、私自身を信頼していただく。その信頼が問題点を解きほぐしてくれる。契約調印が終わると借地地主から握手を求められる。「ご苦労さん！」

5年間で33箇所もの土地に基地局が完成できた。多くの候補地から成約できた土地には「縁」があったのだ。地主や助力をいただいた人たちの多くの人との「縁」ある出会いがあった。そして、私自身は相手のことを考えた誠意ある態度で正直に接してきた。そんな信義を重じた最善の努力と私を援助していただいた人々への報いに、神仏が下した審判の結果が基地局完成という褒美であったのだと感じる。私はこれからもこの気持ちを大切に誠意を持って信義を買きたい。



四日市伊坂無線局(50m鉄塔)背景

「私学生です」

電子機械工学専攻科1年生 松尾 重義
(44M卒)

青峰同窓会皆様お仕事等頑張っておられると思います。今年は、本校の創立40周年になります。私は、44年卒業の3期生ですが、約37年を経過して再度専攻科の新入学生となりました。孫のいる年齢ですが、我が子より若い学生さんと席を並べて毎日緊張して学んでいます。楽しいですよ。

現在の職業は、フリーで主夫業をしています。周りからその理由を問われると「暇だから...再度、勉強したいと思ったから」と自嘲を覚えながらも漠然と答えています。昔を振り返っても良いかなと思うと、社会人として約30数年間の会社勤めを通じて一生懸命に働き、世の流れと共に身をおいてそれなりの人生を過ごしていると思います。会社においては複写機の開発設計を長年担当してきて、多くの人達に接して育てていただいたと思います。そうした仕事の中で、年が経つにつけ自分の中に技術的な発想が陳腐で技術の竹の子生活をしている様な気がしてなりません。当然管理・リーダーの仕事に重点が移っていくのですが、日常の自己向上の努力を怠っている事と家庭の煩雑さも含めて「忙しくて出来ないという正当化」を行っていたように思います。年齢がだいたい子育ての終了した頃、自分の役割責任が一つ終えたと思ったときから、体調が崩れだしたのです。急激に体重が75kgから48kgまで痩せました。

それは、医師からの「食道癌」の通知でした。これは色々なことより身を退けられることの想いがして、意外と素直に自分自身に死を見つめて受け入れることができました。今思うと、こういう事がどこか「こころの病気」になっていたのと思われま。手術は成功した様ですが、その後アルコール依存症となり自分なりに苦しみました。現在その状態を抜け出した様子です。この体験は貴重で家族の絆に助けられました。そして、「もう一度勉強したい」と強く思います。

「南嶽磨磚」 なんがくません

皆様ご自愛を願います



南嶽磨磚

瓦を磨いても玉にならない、自覚し励め。

南宋禅問答：南嶽懷讓禅師

「気軽に母校訪問」

南井 三治 (47E卒)

母校、鈴鹿高専を卒業して30年を越えました。今年51歳を迎えるまでに、すでに同級の仲間3人の悲報にも接しています。亡くなった仲間の気持ちや意志にも応えられるように、社会で何かの形にて貢献していきたいと考えています。

人間と地球についても考えるときがあります。地球に生まれて、その環境を人類の一員として汚すと共に、何か私自身が出来ることもあるのではと思いつつ、日々企業社会の人々、地域住民や家族と生活しています。

大げさな表現になってしまいました。私は数年、液晶装置の営業活動を行っています。営業先は台湾を中心として、中国大陸から一部マレーシアやシンガポールにも及びます。本年からは国内中心となり、PDPや有機ELを含めた客先と交渉しています。

日本の装置産業は、過酷な企業間競争とデフレ価格に巻き込まれています。新聞紙上にてご存じの通り、大企業はリストラクチャリングや明確な戦略を示せず右往左往しています。現在ほど、まじめな戦略と戦術が要求されている時はない。しかも、その要求は各社員に及んで

います。このような状況が構造改革を迫られ、かつ経済をデフレから脱却すべき政策の必要な日本の姿でしょう。

テレビや新聞情報などから、経済特に金融経済の不合理が、デフレや株式市場に暗雲をもたらしていると解説される。バブル後の再構築の不徹底が原因でもあるのでしょう。しかし一方では、この株やマネーゲームのグローバルには懐疑的にもなります。特に日本としては、一大強国ばかりでなくアジアにもっと眼を向けて、両眼の経済・政治政策が必要と感じます。本質的な文明・文化

の智恵がこのような問題を救えるのではと思います。

話を戻します。年間20回台湾を往復したり、その営業資料作成や客先との会話にて学んだこともたくさんあります。がむしゃらにやっていたので、まるで走馬燈のようです。私自身は、中高年になりこの年代特有の更年期（中年の危機、Middle Life Crisis）も経験しているのではと思っています。

滋賀県栗東市に住み、母校の電気工学科の北村先生と同期です。私は気軽に母校を訪問しています。

鈴鹿高専上海会

伴 茂昭（53E卒）

鈴鹿高専上海の紹介をさせていただきます。現在会員は年長より、

45年E卒 阿波重男 上海ミノルタ
48年H卒 橋川武司 上海APEX
49年C卒 小崎充雄 上海凸版印刷
51年E卒 高士英之 上海三重精密
53年E卒 伴 茂昭 上海ダイソウ の5名です。



私が新会社設立のため現地に駐在して早くも1年が経ちました。ようやく生活にも慣れてきたところです。それまで中国へは一回も行ったことがなく、以前の私が持っていたイメージは、共産圏・自転車・13億人・万里の長城、その程度でした。

そんな私ですから、仕事の面・生活の面・遊びの面でいろんな方にお世話になっているのですが、その中でもやはり先輩後輩の関係は特別です。上海に来て日本にいる時以上に強く、それを感じます。

具体的な活動としては、食事会・ゴルフ会が中心ですが、そこでの情報交換は、非常に現実的、具体的で参考になります。全員が、日本では考えられない問題で、大変苦労しています。それらの対応方法を本音で話し合うことが出来ます。皆さんの会社にも上海駐在の方が見えたら連絡ください。s-van@nifty.comまでご連絡ください。

もう一つ、国内での活動の「ゴルフ鈴鹿高専OB会」のお知らせです。鈴鹿高専卒業生でゴルフコンペを年2回開催しております。現在会員は約50名で、今年の夏で第20回を数えるまでになりました。次回は、2003年1月4日(土)名松CCの予定です。上手な方も、そうでない方も、気軽に参加してください。申し込み及び資料請求は、ダイソウ工業溝上係長まで問い合わせください。

電話：059-265-5700 FAX：052-265-5660

Eメール：y_mizogami@nifty.com

13年度退官職員

定年退職にあたって

元学生課寮務係 吉川 佐賀子



私は、昭和43年1月学生課寮務係に採用されました。全寮制に向けて第4寮の新築工事の真最中であり、その広さに驚きました。寮務係を振り出

しに、機械工学科、学生係、一般科目、電気工学科、学科事務、寮務係と所属してまいりました。

一番印象に残っていることは、平成10年度に学寮食堂を大改修し

てもらったことです。冷暖房が完備され、衛生的で明るい雰囲気のある食堂で、食事の他にオリエンテーション、ガイダンス、寮祭、留学生交流会、卒業生を送る会等寮生の活性化に役立てることができ、ほんとうに素晴らしい建物だと思います。中でも、留学生交流会においては、各国の文化、料理の紹介をすることにより、留学生、寮生、教職員及び地域社会との交流を図ることが出来ました。

同じく平成10年度から秋に学寮役員、指導班長合同合宿研修会が開催され、寮生の熱心な意見を身近に聞くことが出来たこと

は、大変良かったと思っております。

このように、寮生と直接接する仕事に携わることが出来ましたことを感謝いたしておりますと同時に、寮生が卒業後、大学や社会で活躍することを心から願っております。

あっという間の34年間でしたが、無事に任務を果たすことができましたのも、皆様のご支援、ご指導の賜物と厚くお礼申し上げます。

最後になりましたが、鈴鹿高専の発展と皆様のご健康とご多幸をお祈り致します。ほんとうに、ありがとうございました。

(「鈴風」より転載)

各学科の近況報告

一般科目

外国語教室 出口 芳孝 (43E卒)

まずは、人事のことから。化学の中村先生が今年度一杯で定年ご退官です。一昨年の勝田先生に続いて、古き良き時代が終わってしまうのかなと、感慨ひとしおです。(定員が新設の沖縄高専に回されて後任はなさそうかどうかです。)現在は、英語の松林先生が学生主事、長瀬先生が学科主任、国語の西岡先生が学生相談室長、学年主任が体育の宮崎先生、物理の土田先生、倫社の奥先生、の持ち回り?、という顔ぶれです。

他でも触れられると思いますが、JABEEとか独立行政法人移行とか、一般科目にとっても難問山積です。入学してくる学生もまた世代が変わったようで、おとなしくて、勉強できないものが増えてきました。「勉強しなければならない」と思いつつも、自分では勉強できない人たちが、当然のように不登校や、学校不適應の子も増えてきています。

こういう子供達を相手に、卒業時には大学編入率を5割に、専攻科卒には(JABEEの理事によれば)TOEICで500点以上、国内全大学卒業生の1/3以内の実力をつけさ

せる、という目標が課せられています。

こんな情勢を受けて、担任制度が今年の1年生から変わり、学年ごとに担任が変わるようになりました。自己評価とかFD(=先生のOJT)とか、学生による授業評価とか、色々な試みが始まっています。今のところ、形が先行して中身がついていかないところも見られ、書類の激増に音を上げていますが、そのうちにはしっかりと成果も上がってくるかと思えます。

勿論、クラブ活動に熱心なもの一般のウリですから、そちらも手は抜けません:(ロボコンやソーラーカーほどマスコミ受けしないとかで、厚遇されているとは言えませんが)剣道はもちろん、陸上、バスケ、バレー、テニスと今年も全国大会で暴れてきましたし、高体連でもいい所へ行っています。

一般の先生方の研究室が、相部屋解消のため、1号館から2号館東側へ、更に生物化学棟へと拡散し、校舎や各種施設もすっかり改修・改築され、いよいよ中身も大きく変っていく時期にさしかかってきたようです。

機械工学科

藤松 孝裕 (62M卒)

厳しい社会情勢である近年、機械工学科の卒業生の皆様におかれましては、ますますご活躍のこととお喜び申し上げます。さて、このたび機械工学科の近況を、紙面の

都合もありますので簡単に紹介させていただきます。はじめに、機械工学科での人事異動ですが、長年にわたり本学科のためにご尽力いただきました辻正利教授が平

成15年3月に定年退官されます。辻教授は長年にわたり学科主任を勤められ、本学科の教育活動に多大な貢献をされており、辻教授の退官は、本学科のみならず全学職員からも惜しまれております。後任としては、現在、機械設計関連を専門とする教授を募集しており、来年度、機械工学科の守備範囲がさらに広がることを期待しています。この新しい先生の紹介は、来年度の会報に記載したいと思っております。なお、現在在職しているスタッフおよび主な研究テーマは下表に示すとおりであり、その他、澤辺昭廣技官、谷川義之技官の総勢13名で機械工学科での学生指導や研究活動に取り組んでおります。また、本校には、高価な研究設備も設置されていますの

で、卒業生の皆様におかれましては、会社での問題点等が本校に設置されている研究設備を使って解決できるようであれば、気兼ねなく一声おかけください。また、お近くにお越しの際には是非一度お立ち寄りください。最後に、本校もJABEE審査、独立行政法人化と、現在過渡期を迎えており、それに伴い卒業生を含んだ学外委員会の設置や委員による評価といった仕事を願っていますが、その節は、お忙しいとは思いますが、どうかよろしく願いいたします。また、今夏、本学科のカリキュラム評価をしていただきました卒業生の皆様には、この紙面を借りて御礼申し上げます。

実験室	教官名	各実験室での主な研究テーマ
精密工学	富岡 巧	4足歩行ロボットの歩容について
	白井 達也	柔軟関節ロボットの研究開発
加工システム	大井 司郎	高精密切削ホイールの製作に関する研究
	打田 元美	二物体間の接触圧力分布測定法の開発
材料力学	辻 正利	変化する熱源による熱応力解析
	西谷 正	高分子材料のクリープ変形に関する研究
	末次 正寛	材料の衝撃破壊挙動の直接観察・超音波の工学的利用
流体工学	近藤 邦和	超音波速度分布計による自由噴流に関する研究
熱工学	岡田 修	気液二相流に関する研究
	藤松 孝裕	液体微粒子の粒径測定に関する研究
振動工学	民秋 実	GFRP平板の多軸荷重下における疲労損傷に関する研究

電気工学科

奥田 一雄 (52E卒)

今年の夏は特に暑い日々が続きましたが、電気工学科卒業生の皆様におかれましてはますます御活躍のこととお喜び申し上げます。

さて、以下に電気工学科の近況を簡単に紹介させていただきます。

まず、近年の技術革新の進展に対応可能な技術者を育成することを目的として、従来の強電分野を中心とした教育カリキュラムをメカトロニクスや制御技術等の分野も含めた新しい教育カリキュラムに変更するに伴い、来年度から学科名称を現在の「電気工学科」から「電気電子工学科」に改称する予定です(12月には確定します)。また、電気工学科棟の老朽化に伴う大型改修工事も計画しておりますが、これについては来年度以降に実現すべ

く、準備を進めています。

教員スタッフの面では、昭和39年から39年間、電子計算機工学や応用数学の授業を担当されてきた立木滋也教授が来年3月に定年退職されます。

最後に進学・就職状況ですが、進学希望者はクラスの約半数(40名中19名)となり、国立大学への編入学や専攻科への進学が決定しました。また、就職状況は厳しい社会情勢の中でも求人倍率約14倍と非常に良好で、8月初旬には就職希望者全員の就職先が内定しました。これも卒業生皆様の御活躍のおかげだと感謝しております。

まだまだ残暑厳しい日々が続くようですが、皆様方にはどうか健康に御留意され、お元気で過ごして下さい。また、お近くにお越しの際には是非一度お立ち寄り下さい。

電子情報工学科

長嶋 孝好 (48E卒)

卒業生の皆さまには、お元気でご活躍のことと思います。電子情報工学科における最近の状況をお伝えします。最初は、先生方に関する話題です。吉川先生が、在外研究ということで、海外へ長期出張されています。この5月から翌年の2月末までの10ヶ月間、ハワイ大学に滞在され、符号理論の分野で、精力的に研究を進めておられます。研究の一層の進展が期待されます。

次に、授業内容の変化について記しておきます。まず、今年度から1年生の段階からC++をプログラミング言語として採用することになりました。また、「ものづくり」として長年続いていた、新入生対象の「全加算器の製作」、2年生対象の「ボードコンピュータの製作」が中止されました。(新入生に対してだけは、入学早々の4月に「お風呂ブザーの製作」が実施されました)今年度から、特

に1, 2年生に対して、実験実習として、ソフトウェア関係を充実させるためなのです。

卒業予定の5年生の進路状況ですが、今年度は、就職と進学がほぼ半々の割合です。これまでで、進学希望の割合が最も多いのではないのでしょうか。専攻科への進学が増えてきたのが一因でしょうか。就職、進学ともに、殆どの学生諸君が内定をいただいております。

この夏も、4年生の学生諸君は、恒例の学外実習(工場実習)に出向いて汗を流しました。実習においては、卒業生の皆さまのお手を煩わせたかもしれません(厚くお礼を申し上げます)。今年度の実習生は、17名と多くはありません。数年前より、学外実習が選択科目となったこともあって、人数的には寂しい気がします。ぜひ今後は、より多くの学生諸君に参加して欲しいものです。

生物応用化学科

下野 晃 (58C卒)

鈴鹿高専は創立40周年を向かえ、法人化への移行を数年後ひかえ、激動の時代を迎えました。生物応用化学科では、本校創設当初から勤続されていた笠井先生(現副校長)が今年度いっぱい定年退官されることになり、我々卒業生は寂しいかぎりですが、常に「学生のために」を基本理念にこの時代を乗り越えていけるように努力してまいります。9名の先生方からメッセージが寄せられましたので掲載させていただきます。

笠井 幸郎 : 40周年記念行事に参加いただいた方がありがとうございました。私は残り7ヶ月程で定年になりますが、日々に精進し、この改革期にある高専のために少しでも尽力できればと思っています。皆様のご健闘をお祈りします。

高橋 正博 : 卒業生の方で早死にされている方が、何人かいるのに驚いています。健康に十分気をつけられて頑張ってください。私の方は、若い学生様と接触しているせい

年の割には気持ちも若く、元気に楽しくやっています。

坂西 勝正 : 後2年半で停年退官です。定年後の趣味にと海の釣り堀で頑張っています。また頭の体操も兼ねて有機過酸化物の反応の密度汎関数計算に挑戦しかなり良いところまで行っています。残るはトンボ玉の制作への挑戦です。...坂西の寝言!!

杉山 利章 : 景気は「ちぢんだまま」の状態が続いていて、採用側に魅力ある人材を出さなければ

いけないのに、「ゆとり」を標榜した教育を受けた学生が入学してきます。このギャップをどのように埋められるかがこれからの最大の課題です。

生貝 初：孔形成タンパク質と呼ばれる特殊なタンパク質のX線結晶構造解析を今年から始めました。近いうちに、このタンパク質をバイオテクノロジーへ応用しようと思っています。

岩田 政司（化学工学担当，S50 工業化学科卒業）
：赴任して10年目を迎えます。「学ぶこと」を楽しみ、卒業後も自らを磨きつづけることのできる学生を育てたいと思っています。

長原 滋（S52 工業化学科卒業）

：卒業生と教職員との技術交流集団である「鈴鹿高専ヒューマン&テクノロジーネットワーク（SHTN）」の事務連絡等を担当することになりました。是非、鈴鹿高専のホームページをご覧ください、ご入会をお願いします。

堀井 一夫：工業化学科の先生方も顔が入れ替わっていくので寂しい限りですが、新たに生物系が加わり幅広い勉強ができそうで楽しみです。古い卒業生は是非教室が新しく変わりましたので見物がてら遊びに来てください。

伊東眞由美：鈴鹿に来て3年、学科の仕事をして1年半です。単調な毎日です。卒業生の皆さん刺激的な話をしにきてください。

材料工学科

南部 智慧（02H卒）

金属工学科、材料工学科の卒業生の皆様には益々ご活躍のこととお喜び申し上げます。さて、材料工学科の近況を簡単に紹介させていただきます。

まず、スタッフの入れ替わりですが、平成12年4月に新規採用されました村松雅也技官が名古屋市の中学校教員として採用されたために平成14年3月に辞職されました。平成14年4月より後任として新規採用の村田良樹技官が着任されました。村田技官は旧建設省で電気通信に関する業務に従事された経験をお持ちで、着任後すぐに学生実験・実習の指導にその知識と技術を遺憾なく発揮されております。着任早々、すでに学生実験用の電気炉システムを5台組み立てていただき、その使いやすさに驚きを感じております。その他に移動はなく、学科主任・梶野利彦教授、図書館主事・小倉弘幸教授、国枝義彦教授、井上哲雄教授、岡部純一助教授、江崎尚和助教授、小林達正助教授、兼松秀行助教授、下古谷博司講師、南部智慧助手、和田憲幸助手、猿渡盛久技官の総計13名のスタッフで材料工学科学生の教育・研究指導にあっております。

次に研究設備に関する変化ですが、旧情報処理教育センターが「共同研究推進センター」として生まれ変わる

とともに、これまで材料工学科の主要な研究設備が設置されておりました「材料科学研究センター」が「共同研究推進センター分析室」として生まれ変わりました。また、同センターの副センター長として材料工学科の江崎助教授が就任されました。これに伴い、材料工学科に設置されていた電界放射型走査電子顕微鏡、組織画像処理解析システム、蛍光X線分析装置などは全学共有の設備となりました。材料工学科では、今後も設備の充実に一層の努力を図るとおもに、これらの機器設備を卒業生の皆様をはじめ学外関係機関との共同研究に大いに活用していただきたいと考えております。

一方、卒業予定者の進路に注目すると、平成14年8月現在、就職内定者13名、進学合格者21名と就職する学生の約1.6倍の学生が進学することとなりました。進学希望者は年々増加傾向にありますが、過去を振り返っても進学者が最も多い年ではないでしょうか。JABEE審査、独立行政法人化をひかえ、現在、カリキュラムの見直しも行っております。材料工学科では新しい時代をリードする学生を育て上げるためにも、教育システムの改善により一層の努力をしてまいりたいと思いますので、卒業生の皆様にもご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

高専OB大交流会に参加して

高専OB大交流会(なごやか高専Part 1)に参加して

井上 哲雄(46H卒)

平成13年10月13日(土)に「高専OB大交流会」が名古屋駅前「ホテルキャスルプラザ」にて開催されたので参加した。この「高専OB大交流会」は「東海地区に全国から集まってきている高専OBが一同に会し交流を深めることにより、学校単位では小さな集団が、学校の枠を越えて集まることで大きな集団になることを実感する。またこの交流を通して「いつでも会える仲間や何でも話し合える仲間を増やす」、「相互啓発によりスキルアップを図る」、「ビジネスパートナーと出会う」等、新たな発見をする機会をつくるために企画された集まりである。



高専OB大交流会のパンフレット

八戸高専出身の小笠原宏氏(48卒)を中心に株式会社デンソーに勤務する高専OBが発案し、19人の発起人会が組織された。発起人会設立にあたり上記小笠原氏と山田悦史氏(鈴鹿高専48卒:デンソー勤務)から発起人の一人として参画して欲しいという依頼を受け、発起人の一人として名を連ねることになった。当日は鈴鹿高専卒業生としては齊藤正美氏(43M卒)、橋本正敏氏(44E卒)、山田悦史氏(48M卒)、江崎尚和氏(52H卒)および小生の5名が参加した。



橋本正敏氏(44E卒)の講演

20名以上の参加者がいたのは八戸高専、豊田高専の2校であったが、北は宮城高専から南は都城高専まで27高専の卒業生総勢百数十名の大盛況となった。



江崎尚和氏(52H卒)の説明

16時から橋本正敏氏(鈴鹿高専44卒)、宮下和美氏(長野高専45卒)、福士秀実氏(八戸高専47卒)および岡本正好氏(豊田高専48卒)ら4人の「卒業から現在までの歩み」に関する講演と、それぞれの高専の設立から現在までの変遷についての説明があった。江崎尚和氏(52H卒)がパソコンのPower pointを使って鈴鹿高専の40年の歩みを紹介された。



懇親会にて

その後、懇親会が始まり全国高専OBの真の交流が始まった。料理やお酒もたくさん用意され、その中で来年度も「全国高専OB交流会Part 2」を開催することが満場一致で決められた。懇親会では多くの高専OBと交流を持つことが出来た。しかも高専卒業生というだけですぐに打ち解けて交流できるという不思議な集まりでもあった。本年度は忙しくて発起人の一員として参画するのは辞退したが、時間が許せば高専OBの一人としてこのPart2にも参加したいと思っている。

SHTN事業報告

鈴鹿高専ヒューマン&テクノロジーネットワーク(SHTN)の事業報告

長原 滋 (52C卒)



SHTN第3回総会・第5回技術交流会を開催しました。(敬称略)

実施日、場所 : 平成14年8月3日(土), 鈴鹿高専 マルチメディア棟 視聴覚室

内容 :

(1) 総会

平成13年度事業報告・会計報告・会計監査報告,
平成14年度事業計画・予算案

審議事項

1. SHTN役員の選出, 2. SHTN学生会員の新設, 3.
年会費の納入, 4. SHTNの今後の運営

報告事項

1. 学内事項(テクノサミット, 共同研究推進センター), 2. メーリングリストのウィルス感染

(2) 技術交流会

「新技術への挑戦 - 自社製品の創出を目指して」
橋本正敏(44E, 橋本電子工業(株))

「CTスキャナのデテクターを作る」武村聡史
(47E, (株)島津製作所 医用機器事業部)

産学官共同研究事例紹介「次世代半導体チップ対応マイクロ接合材の開発」江崎尚和(52H, 鈴鹿高専)

「産学官連携に関する全国高専の動向」齊藤正美
(43M, 鈴鹿高専) 自社製品・技術の紹介

「FairCom社データベースソフトウェア製品, c-tree Plus と c-tree Server の紹介と評価版のCD-ROMの配布」酒井善樹(53E, FairCom JAPAN Inc.)

(3) 懇親会

平成14年度は, 第6回技術交流会(平成15年3月), ネットワーク機関紙の発行(「鈴鹿高専技術便り」第6, 7号の紙面を借りて発行)を計画しています。

平成13年度は、下記の事業を実施しました。

1. 第2回総会・第3回技術交流会

実施日、場所：平成13年10月6日(土)、鈴鹿高専
マルチメディア棟 視聴覚室

内 容：

(1) 総 会

(2) 技術交流会

「食品加工の隠れたマジシャン - 食品用界面活性剤を中心として」 加藤友治(47C, 太陽化学(株))

「ITサバイバル時代を生き抜く - 急激に変わりゆくインターネット環境」

大矢知直登(49E, (株)マイクロキャビン)

「産学官共同研究開発事例の紹介 - 農業関係プロジェクトについて」 長原 滋(52C, 鈴鹿高専)

(3) 懇親会

2. 第4回技術交流会

実施日、場所：平成14年3月12日(火)、鈴鹿高専
マルチメディア棟 視聴覚室

内 容：

(1) 特別講演

「産学連携について」 品川隆幸((株)ロダン21)

(2) 基調講演

「産学連携による新事業創出の可能性について」

齊藤正美(43M, 鈴鹿高専)

(3) 分野別懇談会

「地域産業の活性化に関する自由討議」及び全体会議

[機械・材料分野]

議長：大森 久男(三恵工業(株))

[電気電子・情報分野]

議長：橋本 正敏(44E, 橋本電子工業(株))

[生物・化学分野]

議長：河村 止(有)三重緑地)

(4) 懇親パーティ

3. ネットワーク機関紙の発行

「鈴鹿高専技術便り」(SNCT News Letter) 第5号の紙面を借りて発行

なお、この「鈴鹿高専ヒューマン&テクノロジーネットワーク」入会等に関するお問合せは、鈴鹿高専ホームページ(<http://www.suzuka-ct.ac.jp/> 学校案内/共同研究/鈴鹿高専ヒューマン&テクノロジーネットワーク/)にお願いします。



理事会発足について

理事会発足について

青峰同窓会副会長 北村 登 (47E卒)

鈴鹿高専も創立40周年を迎え、青峰同窓会も卒業生が5,000名(会員数約4,400名)を超える大きな規模となり、組織をしっかりとしたものとすることが必要になってきました。また、会員数の増加にともない、総会を開催することが困難になってきております。そこで、各卒業年から原則1名の理事からなる理事会を組織することを、今年初めの総会で決議していただきました。理事会を年1回開催し、同窓会活動の方針を決定していただくこととなりますが、会員皆さまのご協力がなければ実効をあげることは難しいですので、何とぞご理解ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

理事会のメンバーを、下記に示します。なお、氏名の後ろのかっこ内は、卒業年および学科略称です



- 会 長：小手川 智(42C)
- 副会長：益川 賢市(42E) 北村 登(47E)
- 書 記：岩田 政司(50C)
- 会 計：長嶋 孝好(48E)
- 監 査：齋藤 正美(43M) 奥 貞二(45C)
- 理 事：大井 司郎(42M) 山本 伸雄(44M) 井上 哲雄(46H) 堀 要造(47H) 出口 芳孝(48E)
- 中瀬 吉久(49C) 小中 敏克(51E) 近藤 一之(52E) 奥田 一雄(52E) 長原 滋(52C)
- 江崎 尚和(52H) 岩崎 功(53H) 柳川 和英(54M) 藤牧 正浩(55M) 西村 正彦(56M)
- 長谷 智(57M) 下野 晃(58C) 三宅 秀人(59E) 北嶋 満広(60C) 岩出 巧(61E)
- 藤松 孝裕(62M) 岡田 伸一(63E) 加藤 繁明(01C) 南部 智憲(02H) 清水 武志(03E)
- 岡田 功貴(04E) 佐藤 充(05C) 松田 光宏(06I) 小林 宏治(07S) 大山 航(08I)
- 多気 智大(09E) 濃野 将典(10C) 石田 卓也(11M) 岡崎 誠(12S) 児玉 謙司(13M)
- 吉川 徹馬(14M)

13年度会計報告

平成13年度 青峰同窓会 会計報告

収入の部

平成12年度からの繰越金	41,419,846
平成12年度卒業生入会金・終身会費	2,013,000
過去の卒業生入会	176,000
預金利息	28,735

合 計 43,637,581

支出の部

臨時総会、理事会等会議費	284,429
会報発行経費	898,497
卒業生名簿発行経費	2,903,591
電報代費	4,462
事務費	41,638
次年度へ繰越金	39,504,964

合 計 43,637,581

14年度会計予算

平成14年度 青峰同窓会 会計予算

収入の部

平成13年度からの繰越金	39,504,964
平成13年度卒業生入会金・終身会費(193名)	2,123,000

合 計 41,627,964

支出の部

総会、理事会等の会議費	50,000
会報発行経費	950,000
事務費	200,000
創立40周年記念行事への寄付金	3,000,000
次年度(平成15年度)へ繰越金	37,427,964

合 計 41,627,964

体育大会等の結果

第40回東海地区国立高等専門学校体育大会 総合成績

(7月6・7日、13・14日)

陸上競技

2位



テニス

男子団体.....優 勝	
個人 D1,2,3位	個人 S.....2,3位
女子団体3位	
個人 D2位	個人 S.....2位

バドミントン

男子団体.....優 勝	
個人 D1,2位	個人 S.....1,2,3位
女子団体2位	
個人 D3位	個人 S.....2,3位

ソフトテニス

男子団体2位	個人2,3位
女子団体2位	個人2位

バスケットボール

男子.....優 勝 女子.....優 勝

空手道

団体総合2位	組 手1位
個人組手.....優 勝	型3位

サッカー

2位



柔 道

団 体2位	勝 抜優 勝
個人軽量2,3位	重 量3位

弓 道

団 体2位 個 人優勝

剣 道

男子団体.....優 勝	個 人 ...1,2,3位
女子団体.....優 勝	個 人 ...1,2,3位

ハンドボール

2位



バレーボール

男 子.....優勝

水 泳

総 合3位 女 子2位

卓 球

男子団体3位 女子団体3位

第37回全国高等専門学校体育大会成績

(8月10～12日)

陸上競技

男子100m、110mH、女子800m.....予選敗退
 男子砲丸投9位
 男子円盤投病欠欠場

バスケットボール

男子3位 女子3位

剣道

男子団体戦.....優勝 男子個人戦2,3位
 女子個人戦2位

バレーボール

1回戦敗退



テニス

男子団体戦2回戦敗退
 男子個人戦ダブルス2位

バトミントン

男子団体戦1回戦敗退
 男子個人戦シングルス1回戦敗退
 男子個人戦ダブルス1回戦敗退

水泳

男子200m自由形5位
 女子50mバタフライ予選敗退

第35回近畿・東海・北陸・信越地区高等専門学校弓道大会成績

(7月25・26日)

団体の部5位 女子団体の部4位 個人の部3,4位 射技優秀賞(女子)

ドリームカップ ソーラーカーレース 鈴鹿2002

(7月28日)

夏休み恒例の「ソーラーカーレース2002鈴鹿」が7月27・28日の2日間にわたって鈴鹿サーキットを会場として開催されました。本校のチームは、昨年までのチャレンジクラスから最新の電池を利用したドリームクラ

スでの参加でした。

結果は、ラップ数は70週で総合10位程度の成績でしたが、電池交換のため規則によりドリームクラスで11位、総合で19位でした。

今後の主なイベント

- ・第13回 プログラミングコンテスト 10月12・13日(土・日) 石川県地場産業振興センター(金沢市)
- ・ロボコン2002 東海・北陸地区大会 11月3日(日) 岐阜アリーナ(岐阜)
- ・第15回 高専ロボコン全国大会 11月24日(日) 国技館(東京)

住所変更等の連絡のお願い

1月末に新しい卒業生名簿を会員の皆様には発送しましたが、住所不明等で発送できない方や返送されてきている方が多くみえます。会員の方で手元に新しい名簿が届いていない方は、住所・勤務先等を、FaxまたはE-mailにて下記宛にご連絡ください。【連絡先】 Fax番号：0593-87-0338 E-mail：almn@suzuka-ct.ac.jp

同窓会未入会の皆様へ

青峰同窓会は初期の卒業生の卒業時点ではまだ結成されていませんでしたので、会員になられていない卒業生の方も多くみえます。住所確認の目的もあり、今回この会報を全卒業生にお送りさせていただいております。同窓会未入会の方は郵便ラベルの氏名の下に“*”がついております。この機会にぜひ青峰同窓会に加入していただきますようお願い申し上げます。

入会希望の方は、下記の銀行口座に入会金1,000円と終身会費10,000円、合計11,000円を振り込んでいただくと同時に、FAXまたはE-mailにて、振り込んだことをお知らせ下さい。

銀行：百五銀行 旭が丘支店
 口座番号：64520
 口座名義：鈴鹿工業高等専門学校 青峰同窓会
 代表幹事 小手川 智
 振込金額：11,000円

Fax：0593-87-0338 (青峰同窓会とご記入ください)
 E-mail：almn@suzuka-ct.ac.jp



編集後記

今年の会報は「創立40周年記念号」ということで、カラー化を試みました。また、発行日を昨年までより約1ヶ月遅くして、体育大会などの結果をお知らせできるようにしました。記事につきましても卒業生の方からのお便りを掲載することが出来ました。

会報発行は同窓会活動の大きな一つですので、楽しみにしていただける会報としたいと思っておりますので、ご意見ご要望を是非お寄せください。

(編集担当 47E卒 北村登)

誌名 青峰同窓会報
 発行日 2002年 月 日
 発行 国立鈴鹿工業高等専門学校
 青峰同窓会 広報委員会
 〒510-0294 鈴鹿市白子町
 Tel:0593-86-1031(代)
 E-mail:almn@suzuka-ct.ac.jp

ホームページ

<http://www/suzuka-ct.ac.jp/almn/>